

FIWC

Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2000.9

参加者：鳥居厚志、西尾雄志、青山哲也、原田健一、服部雅行、佐塚あゆみ、納富智子、峯岸直寛、近藤剛史、
宮本久美子、目黒美穂子、鳥山和義、西尾建人、豊田素子、中元則子、以上15名

2000年9月30日(土)目黒鍼灸院にて。

担当：鳥居厚志

FIWCの呼びかけで、SCIと合同で行っています。

活動報告

フィリピンキャンプ報告(FIWC関東)

FIWCでは8月24日から9月14日までの3週間、レイテ島でワークキャンプを行いました。

参加者は総勢19名、ワーク内容は貯水タンクを作るというものでした。貯水タンクは、水源と各家庭の中間の、小さなダムのような役割を果たします。今回のワーク地のアンティポロには1500世帯くらいの人々が暮らしていますが、現在はすべての水の供給を、たった2つの井戸に頼っている、という状況でした。

貯水タンクをつくることで、各家庭に直接水道をひく、お手伝いができることになったと思います。

ワークが順調に進み、予定よりも早く終了したため、残りの期間を使って、現地の方々と深い交流ができたと思います。一緒にバスケットボールをしたり、ダンスパーティーをしたり、「ワークキャンプ」という形に収まらず、フィリピンの暮らしをナマで体験できたことは、私たちにとっても、おそらく現地の方々にとっても貴重な体験になったと思います。

納富智子

2001年フィリピンキャンプ(FIWC関東)

2001年2月中旬～3月上旬予定

次期フィリピンキャンプの総リーダーを務めさせていただきます、近藤剛史と申します。

レイテ島で4回目となるワークキャンプを行います。ワークの内容については未定、すべては下見次第です。

子供がかわいいです。村人と仲良くなれます。英語が上達します。恋が芽生えるとか芽生えないとか。でも私は未だ芽生えず、フィリピンが好きになります。誰か私のことも好きになって。

12月に説明会を行います。まだフィリピンキャンプに参加したことない方はもちろん、経験者も大歓迎です。楽しいキャンプにしましょう。

10月10日から下見に行つてまいります。1ヶ月、日本を離れてしまいます。何かありましたらホットメールまでお願いします。

近藤剛史



2000年 日韓合同ワークキャンプ

モグネット www.mognet.org
ワークキャンプの情報あります。 *e-mail* mog@mognet.org

平和の家夏祭り(FIWC関東)

7月29日(土)に毎年恒例の夏祭りが行われ、FIWCから3名がボランティアとして参加しました。今年の祭りは琉球テイストとのことで、琉球音楽が流れる中でフランクフルトや焼きソバの屋台を担当して祭りに加わりました。入居者の皆さんは屋台で食べたりゲームで遊んだり、生バンドの演奏に合わせて踊ったりして祭りを楽しんでいました。

平和の家には知的障害をもつ人達が暮らしているのですが、入居者の人達はとても個性豊かで、いつも素敵な笑顔をたくさん見せてくれます。平和な雰囲気の中で楽しく暮らしているから、あの笑顔が出てくるのだと思います。今回も変わらぬ笑顔をたくさん貰ってきました。

原田健一

長島愛生園ちんどん隊(FIWC)



8月3日、毎年恒例の愛生園夏祭りにちんどん隊として参加しました。今回も多くの個性豊かな人達が各地から30人程集まって賑やかなちんどん隊が結成されました。晴天のもと、園内の病院や住宅地の中を昼過ぎから夕方まで楽器を演奏しながら楽しく練り歩きました。たくさんの人が家の中から出てきたり窓を開けたりして演奏を聞いてくれました。中には演奏に合わせて楽しそうに踊ってくれたおじさんもいました。練り歩きの最後は祭り会場の真ん中で多くの観衆に囲まれながら演奏をしました。

祭りの終わりには恒例の打ち上げ花火が海から

上がり愛生園の夜空を美しく染めていました。

原田健一

日韓合同ワークキャンプ(FIWC関西)



8月9日から20日まで韓国全羅南道にあるハンセン病回復者定着村「再生園」(チェセンウォン)で韓国忠南大学助産会との合同キャンプが行われました。ワーク内容は村の排水路の石垣築み。高さが3メートル、長さが120メートルでした。参加者は日本側が46人、韓国側が84人で常時80人ぐらいがキャンプ地にいました。キャンプ中は家庭訪問、茶話会、レクリエーションなどの活動もしました。キャンプアウトの日以外は天候もよく、ほぼ予定通りの活動ができました。(ワークは当初の内容が多すぎたため石垣のみ完成させました。)

現在、キャンプの文集を作成中で参加者の原稿を募集しています。原稿サイズはB5。書式は自由で手書きもOK、原稿の上下左右に15ミリずつ余白を空けてください。送付先は記録係の福田まやまで。

個人的な感想を一言。今回のキャンプは、あまり問題もなく順調に進みました。リーダーによると韓国側との事前連絡や準備に努力したということです。ちょっとハプニングなどがなさ過ぎたくらい。参加者は圧倒的に女性が多く、またパワーも女性の方があったように思います。今回のキャンプ地は2回目の訪問で村の人もよくキャンパーの中に入り、一緒に作業し、酒を酌み交わしていました。

青山哲也

ネパールキャンプ(SCI)

2000年10月20日～11月3日

キャンプ地：ネパールThimi村(カトマンズ近郊)

メインワーク：障害児用の学校の建設

こんにちは、ネパールキャンプリーダーの宮本久美子です。

ネパールキャンプは下見に行って、ワークの内容ががらりと変わり、今回のキャンプでは障害児用の学校の建設の一部を担うこととなりました。

日程は10月20日から11月3日までで、先発は15日に出発して8日にかえってきます。

早稲田をはじめとする東京近郊の学生17人(男8人、女9人)でいくことが決定しました。

今回のキャンプの試みで少し新しい事といえば、ネパール側にワークの手配や食事のことなど全部をお任せした事です。

ネパールは日本以上に国際キャンプなどもやりなれた国なのでキャンプの形ができていて、私達のキャンプもネパール方式にかなり習った形のものになりそうです。

キャンプ中にネパールのお正月みたいなお祭りがあるらしくって、かなり盛大に祝うそうなので、その間はワークは一応お休みにして、みんなでお祭りに参加しようと楽しみにしています。

障害児用の学校を建てるという事で、障害児の子との交流も最重要ポイントにとり入れます。

いっしょにワークして、さらに工作をしたり運動会みたいなものをやったりしようと張切っています。

——以下ネパールキャンプのパンフレットより——

今回のワーク地Thimi村には、100人以上の障害を持った人々が生活しています。障害児の学校の校長先生であるBabukrishnaさん(キャンプのネパール側のリーダーでもある)の話によると、現在は教室が狭く18人の生徒しか学校に通うことができず、借家なのでその家賃の出費がかなり負担になっているそうです。SCIネパールが去年学校建設の計画を立てたものの、資金不足の為、校舎の骨組みのみが完成しているだけです。完成にはあと60万ルピー(約100

万円)が必要ですが、キャンプにも予算の制約があるため、今回は校舎の1階にある2つの教室の建設を行います。

作業は、教室の壁をレンガで作る作業と、床をセメントで固める作業を行います。難しい技術を要するものではなく、やり方さえ教われれば、十分参加できます。また、ワークは日本人メンバーと、SCIネパールのメンバー、村人の有志、そして障害児とともに行います。これらの作業を通して是非いろいろな人と仲良くなってください。

また、今回の学校の建設という作業は、ワークキャンプの名のもとに行われるものなので、作業への参加は参加者自身の自発性にゆだねられます。「今日は疲れたので働きたくない」、「ネパールの村人と仲良くなったので、今日はワークに参加しないで、その人の家に遊びに行きたい」といった理由で、ワークに参加しないことも基本的に認められます。キャンプ期間中に作業を終了させることを、参加者全員の最低限の共通の目標にしたいと思います。

そしてもう一つのワークとして重点をおいている事に、文化交流があります。日本の文化を伝え、ネパール族の文化を生活を通して体で感じましょう。それは、食事の仕方やトイレというような生活スタイルであったり、もしくは習字や剣道、折り紙といったものかもしれません。1日教室や、フェスティバル、運動会を子供達とやろうとも企画しています。機会はいくらでもあるとおもいます。

遠く遠く離れた地に、日本の良き理解者ができて、私達もまったく知らなかったネパール族のことが知れたらすごくうれしいですね。他にもやりたいことがあったら、是非提案してください。キャンプをみんなで良く盛り上げましょう。

基本的には、参加者ひとりひとりが自分に余裕も持った形で作業に参加してくれればOKです。

宮本久美子

山梨キャンプ(SCI)

2000/7/30-8/13

山梨県東山梨郡牧丘町西保下「小杉農場」

ほっとけ小屋の内装、動物飼育場の牧柵作り、木の伐採、皮むき、用材作り

参加者19名、平和学講座参加者：8名、参加国籍：日本、ベルギー、ドイツ、台湾、アイルランド

今年の特色は例年のようなワークキャンプに加えて、月に一回東京で開催していた、市民講座「平和学」をキャンプ中に開催したことです。今年が「2000年ユネスコ平和文化年」とされたのを受けて、昨年に続いて開講した「平和学」をワークキャンプとドッキングさせたことです。いつもは日本人だけで話しかけ合っている平和学を外人を混えて話し合うことによって「平和」といってもヨーロッパと日本ではかなりイメージ的に違っている事を感じさせられるのが印象的でした。早く、「平和学」のマトメを作れるように頑張りたいと思います。

市民講座「平和学」(SCI)

第1回(4/23)：平和学の原点～経験・記憶と平和

第2回(5/28)：

平和学の分析枠組み～暴力システムと平和

第3回(6/25)：

平和構築の方法Ⅰ～アイデンティティと平和

第4回(8/5、6)：国際交流と平和

第5回(9/24)：

平和構築の方法Ⅱ～NGO・市民社会と平和

場所：食堂「三平」

時間：13:00～16:00

毎回、とても面白く考えさせられる問題ばかりでした。今まで「戦争論」はかなり論じられていますが「平和論」は意外にかたられてきませんでした。「平和運動」を自認するSCIとしては、漠然とした「平和論」から理論的にもきちっとした「平和論」考えていきかけとして、になればと思っています。特に、ワークキャン

プと「平和運動」がどのように繋がるのか、これからのNGOの方向性を見つける為にも、この講座は来年も是非開催したいと思っています。

山梨運動会(SCI)

日時：10/15 朝8:00～

場所：山梨県東山梨郡牧丘町金峰牧場

生徒がたった「二人」という小学校の分校の運動会です。やまのふもとの本校の生徒やその父兄が毎年応援にかけつけてくれます。参加者全員が競技者という楽しい運動会です。午後は参加者全員がそれぞれの楽しい食事をしながら山の「紅葉」を楽しむ「紅葉祭」です。山の中腹を走る「クロスカントリー」は完走するだけでも大変!!

宇佐美週末キャンプ(SCI)

日時：10月末の週末

場所：宇佐美駅から車で10分位

仕事：家屋の屋根や壁の修理

夜はじっくり話し合い!

リーダーズ・トレーニング・キャンプ(SCI)

冬休みを利用して、「リーダーズ・トレーニング・キャンプ」を計画しています。リーダーを経験した人、リーダーをこれからしてみたい人を中心にして、今までに参加したキャンプの感想を踏まえて、現実困った事、疑問に思った事などなるべく具体的な例についてどのように対処したらいいのか、どんなキャンプがいいキャンプと言えるのか、等々 キャンプの本質論、技術論を話し合う場として計画しています。

ドイツのローベルトさん

ローベルト・コッタさんはSCIのドイツ支部のメンバーですが、今度早稲田大学に留学生として来日しました。彼はヨーロッパのネットワークの中にあるイースト・ウエスト・ワーキンググループに属していて、特にバルカン半島でのM/LTV(中・長期奉仕者)の問題に熱心

に取り組んでいるそうです。M/LTVに関心のある人は是非連絡を取って話を聞いてみて下さい。

豊田素子

○SCI-Japanの連絡先

豊田兼宇、素子

意見交換・ほか

今日の定例会では、フィリピンキャンプで議論が白熱しました。何度もキャンプを重ねる中で、フィリピン側にパートナーシップ団体が育たないのはなぜだろうか、という問いがきっかけでした。関西の韓国キャンプは、始まりの時はテジョン駅の前でピラをまいて、その結果、忠南大学のジョナヘが発足しました。「何のためにキャンプをするのか?」という基本的な問いかけに、何を答えますか。その目的が真に必要なものであれば、それを伝播させるしかけが必要かもしれません。

ここ数ヶ月でキャンパーのおめでたい話が。

宮本さんと飛田さんがキャンパー同士でご結婚。白井隆彦さんもこの夏に結婚されました。弘田見佐子さんも結婚されて、東京に移りました。

みなさん、おめでとう! 身近な話題も含めて、近況報告、呼びかけ等、どしどしお寄せください。

服部雅行

定例委員会報告2000年7月号の訂正――――

「らい予防法 損害賠償裁判経過」の文章中の「療養所生活者5000人を中心に国を相手に裁判を・・・」は500人の誤りです。

ネパール、フィリピン雑感 西尾雄志

今年の夏は、不労所得の奨学金をフル活用してネパールとフィリピンに行ってきた。ネパールは10月に行われるキャンプの準備のため、フィリピンはレイテ島で行われる貯水槽作りのキャンプに参加するためだ。この2カ国の滞在ではさまざまな事件を通して、FIWCのキャンプと、SCIのキャンプのあり方の違いが明確に見えて、とてもいい機会になった。

特にネパールの滞在は、この私をどぎまぎさせた。

今回のSCIのネパールキャンプは、日本とネパールの2国間で行われるバイラテラルキャンプとして計画が進められていた。事の発端は99年のバングラキャンプに参加した学習院大の宮本久美子氏が、ヨーロッパで行われたSCIの国際会議(ICM)に出席したことからはじまる。その会議で宮本氏は当時の(ここ重要)ネパールSCIのセクレタリーだったカナイヤ氏と運命的に出会ってしまった。その出会いを通して、宮本氏とカナイヤ氏はネパールで2国間キャンプをしようということで盛り上がり、日本へ帰国後も宮本氏は、せっせとEメールでカナイヤ氏と連絡を取り合い、ネパールキャンプの準備をすすめていたのだった。

その中でカナイヤ氏は、ネパールのある村で橋の補修を行うワークプロジェクトを紹介した。メールのやり取りを通してこの計画は着々と進み、ワーク資材の材料リストや、現地の責任者の決定まで話は進んでいた。ことはうまく運ばれているかに見えた。

今回私がネパールに赴いたのも、この橋の補修キャンプの最終的な、あくまで最終的な打ち合わせをするためだった。

ネパールへは、総リーダーの宮本氏とそのアシスタントである松永氏と3人で行く予定だったが、飛行機チケットが思うようにとれず、この両氏よりとりあえず1週間ほど先に私が一人で行くことになった。しかし、実際ネパールに行くと、ネパールSCIのメンバーに会って私はたまげた!!

綿密に練り上げられ、開催まであと一歩!のところ

ネパール、フィリピン雑感西尾雄志

まで進んでいるはずの今回のネパールキャンプの計画を、現地のメンバーは私がネパール入りする数日前にいきなり知らされたという。それ以前は、カナイヤ氏からそんな話はなにも聞いていない、というのだ。「あんたたちね、そんな寝ぼけたことってたら、こまるよ。こっちはメールであんたたちの代表のカナイヤさんとしっかり連絡とって、計画建ててきたんだよ。知らないはずがないじゃないか。」

わたしがうんざりしながら、SCIのメンバーにこう言うと、さらに驚くべき返答が返ってきた。「君は重大な誤解をしているようだ。さっきから君はカナイヤ、カナイヤというが、彼はもう僕らの代表じゃないんだよ。この前の代表選で敗れて、いまは代表は違う人だよ」。

いままで、SCIネパールの代表を名乗ってたカナイヤ氏は、実はSCIネパールの代表ではなかったのである。宮本氏がカナイヤ氏とであった頃は確かに代表だったようだが、今は代表でも何でもなかったのだ。つまり総リーダーの宮本氏は、SCIの代表でもなんでもない、ただのおっさんと一生懸命メールをやり取りし、キャンプの計画を進めてきたのであった。

そんな中で、日本のSCIがネパールでキャンプをやりたがっているということと、カナイヤ氏が、自分ひとりで勝手にキャンプの計画を進めていることを土壇場になって知らされたSCIネパールのメンバーたちは、私がネパールに到着する前日にミーティングを開き、日本がネパールでキャンプをやることは受け入れるが、これまで勝手にカナイヤ氏が進めていた計画はいったん白紙に戻し、また一からキャンプの計画を建て直す、ということを決めたらしい。

このおかげで、今回のネパールでは橋の補修を行う村に行って、村長さんや住民の団体の代表者と適当に最終的な話を詰めて、とっととつまらない仕事を終わらせ、残った日々は昼間から酒飲んで適当に暮らそう！そう考えていた当初の私のもくろみは、完

全に打ち砕かれてしまった。これからSCIネパールが紹介してくれるという村を一件一件はじめて周らなければならなくなってしまったのだ。

しかしながら、カナイヤ氏が紹介してくれた村では、現在ある程度までキャンプの計画が進んでおり、一部の村の人たちはキャンプ開催をすでに期待している状況なので、その村もキャンプの候補地のひとつとして扱ってもらうことは、SCIのメンバーにも了承してもらった。

この時点では私は、ほかの村はやっつけ仕事のまわり、最終的にはあれこれテキトーな理由をつけてカナイヤ氏が紹介してくれた村でキャンプをやるのがベストだと思っていた。だってもうその村でのキャンプの計画はあらかじめ進んでいるのだから、そこでキャンプやるのが一番楽じゃん！そう思っていたのである。しかし、私は甘かった。次の日に、カナイヤ氏が紹介してくれた村にいて、またまた、私はたまげさせられた。

補修するはずだった橋はもうすでに完成していたのだだった。

このおかげで、私は完全にキャンプ開催地を一心から探しなおさなくてはならなくなってしまったのだ。「だから、組織をつたってキャンプの準備をすすめるのはいやなんだ。その組織のわけのわからぬ内部事情に、がんがん振り回されてしまう。」

そのとき私は、SCIネパールという組織と組むことに対して、ほとほとうんざりしたが、やはりすべての物事には短所もあれば長所もあるものである。

SCIネパールは私に4つの村を紹介してくれたのだが、その中でワークキャンプを行う上でうってつけの村が見つかったからだ。それが10月に行われるティミ村だ。そのプロジェクトの内容は、障害者用の学校を建設するというものだった。ワークキャンプにかかわって長い年月が経つが、これくらい重要度の高いプロジェクトを見つけることは容易ではない。しかし、今回はSCIネパールのその組織のネットワークゆえに、いとも簡単に良いワークプロジェクトを見つけてくれたのだ。

このように私はネパールで、組織ゆえにもつめんどくささと、組織ゆえの強さの両面を見ることができた。

そんな感じでネパールでの下見を終え、私はタイ航空に乗り込み、機内でシンハービールに泥酔しながら、次のキャンプ地フィリピンレイテ島へと向かった。

組織というものの存在を強く意識したネパール下見とは対照的に、今回のフィリピンキャンプは、「こんなキャンプがありえるのか!」、と思われるほど「非」組織的なものだった。

まず、今回のフィリピンキャンプには現地の受け入れNGOが一切なかった。そもそもキャンプ地としてその村を見つけたのも、フィリピンのNGOの紹介ではなく、キャンプで出会ったフィリピン人が個人的に紹介してくれたものだ。さらに、今回のキャンプでは事情により村の小学校で滞在することが急きょ不可能となり、ちょっと大きめの家に住む村のおばちゃんのところへキャンパー19人全員滞在することになったのである。去年その島でキャンプをやったときは、NGOとは関わらなかったものの、学校という組織とはある程度関わるようになった。しかし今回はその学校ともすっかり独立する形でキャンプが行われたのである。

このように、組織というものと一切かかわらない形でキャンプを行うとどうなるか?

組織という仲介役がないから、キャンパー一人一人が、個人的な関係をもとに村人の中へとダイレクトに関わっていくことになる。今回のフィリピンキャンプが素晴らしかったのはまさにその点にある。組織を介してキャンプをするとどうしても、その組織のメンバーとの関係が深くなり、ワークを行う村の人々と接する機会がどうしても希薄になってしまう。ワークキャンプを行う上での主役はあくまでプロジェクトの行われる村に住む人だ。そういったキャンプの主役である村の人と、これだけキャンパーが打ち解けたキャンプを、私は過去に知らない。ワークキャンプ中に、裸足で野良仕事してるおっさんと、あれだけキャンパーが打ち解けられた今回のフィリピンキャンプは素晴らしかったと思う。

しかし、キャンプにおいて「非」組織的であるが故の難点も確かに存在する。非組織的であるがゆえに、情報がなかなか思うように手に入らず、重要度の高いワークプロジェクトを見つけることが難しいのだ。

しかし、今回のフィリピンキャンプはその辺をうまくクリアしていた。おそらくキャンプ前の下見で、足を棒のようにして、必死になってたくさん村を周り、プロジェクトを探したのだろう。

今回のワークプロジェクトは貯水槽の建設だったが、このプロジェクトはワークの重要度から見てもまずまずのものだろうし、さらにキャンプの醍醐味である汗して働く肉体労働の場をきちんと提供できるものだった。今回のキャンプでは、ワークリーダーの控えめなリーダーシップのよさもあって、男女問わず、みんな活き活きとワークをしていた。

とまあ、こんな感じでネパール、およびフィリピンでは、ワークキャンプというものをきっかけにして、「組織」というもののもつわずらわしさと、その強み、そして「非」組織というものが持つ可能性と難しさを見てきた。

組織的であろうと、非組織的であろうと、どっちにしても長所と短所がある。そして当たり前のことではあるが、長所を伸ばし、難点をできるだけ抑えるのは、キャンプを企画する人たちの誠意と努力だ。今回のフィリピンキャンプでは、ピロ(中村博志)、ノン(納富智子)、牛(潮田広行)、あゆ(佐塚あゆみ)の4人のキャンプ企画者たちの誠意と努力により、とても良いキャンプが実現した。

こんなすばらしいキャンプに参加できたことを幸せに思うと同時に、苦勞してキャンプの準備を進めてきた彼らには、最大の賛辞を贈りたい。どうもありがとう。

そして、10月行われるネパールのキャンプでは私も企画者の一人として、彼らに負けぬ努力をしなければならない。ネパールには明々後日に旅立つ。めんどくさいことばかりのキャンプ生活が待っているような気がするが、文句をいわず、がんばってこようと思う。

それでは行って来ます!

FIWC 関東委員会会計より

FIWC関東委員会会計について

あまり知られていない事実ですが、FIWC関東委員会の会計は、平成10年4月から、西尾が預かる形となっています。その経緯は、それまで会計を担当していた松本譲がその任期を終えたにもかかわらず、それに続く適当な人材がいなかったために、「とりえず」というかたちで、西尾が預かる形となりました。西尾が会計を預かってからの、会計の状況を報告します。

内容	支出	残高
松本譲から会計引継ぎ(1998年4月)		175,680
定例会報告発送費(4回)	48,900	
1999年年末報告会奉仕園会場費	36,750	
文具・封筒など	3,450	
2000年7月末の残高		86,580

現在、会計にある金額は86,580円ですが、8月に行われたフィリピンキャンプからFIWC年会費として、4万円を徴収することになったため、12万円程度のお金があることになります。定例会報告を一回発送するにあたってかかる費用は、切手代や封筒代などをあわせて1万8千円程度です。現在2ヶ月に1回のペースで定例会を行っているので、あと7回分の定例会を行うだけの費用がある計算になります。また、来年の2月頃にフィリピンキャンプが開催されるので、そこからも年会費の徴収が見込めます。こう考えると、関東委員会の会計は非常に安泰のように思われますが、こういった事実は、オールドキャンパーの皆さんのあたたい心(つまり年会費の納入)を拒むものでは決してありません。年会費納入用に新たにFIWC関東委員会の郵便口座をつくったのでそちらのほうへほとんど年会費納入をよろしく願います。

年末に温泉でも行ってパーっと忘年会兼年末報告会でもやりましょう。

西尾雄志(会計)

年会費と口座開設のお知らせ

FIWC関東委員会の口座を開設しました。

年会費は3000円です。定例会報告の印刷・発送代や委員会の運営費は、年会費やカンパからまかわれます。会計報告は毎年末に行います。

なお、郵便振替口座は開設手続き中です。次回の定例会報告に載せます。とりえずは下記まで振り込んでください。

8月に行われたフィリピンキャンプの会計から、キャンプで余った分を委員会の会計に入れることになりました。ありがとうございました。

郵便貯金 記号10120 番号62574261
口座名義：FIWC関東委員会

次回の定例会

2000年11月25日(土)19時から
東京・新中野「目黒鍼療院」にて

ネパールキャンプ(SCI)報告など。

担当：西尾 雄志

編集：茂木 亮

PDF版の定例会報告では、個人の連絡先などを掲載しておりません。必要場合は、メールでお問い合わせください。

